



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果内容の共有、教育研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

令和4年度 初任者研修 課題等研修Ⅴ 令和4年10月20日（木）実施

研修 「次代を担う子どもを育成するために求められる力とは」

講師：前高知商業高等学校長・情報教育学校支援アドバイザー

岡崎 伸二氏

知識は自分で獲得する



次代を担う子どもを育成するために
教師に求められる力ってどんな力？

- ・課題発見解決力
- ・創造力
- ・プレゼン力
- ・コーディネート力
- ・コミュニケーション力
- ・授業改善力
- ・ファシリテーション力
- ・メモ力
- ・コーチング力
- ・発問力
- ・ICT活用力
- ・失敗から学ぶ力等

岡崎アドバイザーからこれ使えるよ！

自分の意見を挙手で示してほしい時に…

△ 「ちょっと、どっちと思うか手を挙げてみて」

○ 「〇〇中学校の3年生の力を見てみたい。どっちと思うか手を挙げてみて」

子どもが主体的に動くには、指導する際にどのように指示をだすかがポイントです。励みになる言葉を添えて伝えると動きが主体的になります。これを「指導言」（しどうげん）といいます。

今回、体験したワークショップの内容

I グループで設定されたテーマについて調べ、結論を導き出し、プレゼン資料を作成する。



II ワールドカフェ方式で、プレゼンを繰り返し行い、他のグループと考えを共有する。



III I・IIをもとに自分の考えを論述し、全員で交流する。



IV 研修を振り返って「自分は何ができて何ができなかったのか」を考える。

次代を担う子どもを育成する授業

★プログラムづくりに時間をかける

授業をつくる時には、教材研究はもちろんですがプログラムづくりに時間をかけましょう。子どもたちにどう参加してもらえるか、何を考え、何を話してもらえるか、という視点を大切にしましょう。タブレットもどんどん活用しましょう。

★ゴールを明確にした授業

個別最適な学びにつなげるために、ゴールを明らかにして授業を始めましょう。道筋を示すことによって、子どもが何を学ぶかが分かります。プレゼンをさせる場合には、メンバーを変えて2回行うとよいです。1回目よりよりよい発表をしたいという思いが生まれ、学びを促進させることに繋がります。

★行動の変容をうながす授業

子どもたちが、学びに熱中するようなしかけを用意し、行動を起こさざるを得ない状況をつくりましょう。ワールドカフェも繰り返し行うことで、子どもたちは慣れていきます。

これから求められる力は、自分自身が変わることができる力

【今日「何ができて何ができなかったか」そして今後どうしたいか。】（受講者の振り返りから）

「授業改善力」「失敗から学ぶ力」は、私が一番大切にしていることです。自分が「やってみたい」「身に付けてほしい」と思って構想した授業であっても生徒がついてこなければよい授業とは言えません。目の前の生徒がわくわくして「分かった!」「楽しかった!」と思えるようなものにしていかなければならないし、年数が経ってもこれは変わらず考え続けられる人でありたいです。また、今日改めて「コミュニケーション力」について考え直す機会になりました。「コミュニケーション」と聞くと、どうしてもファシリテーターやリーダーとしてグループをまとめるイメージがありました。しかし、相手が話しやすいように反応することも一つ、効果的に周りを動かすために指示を出すことも一つ、材料や情報を集めることも一つ、様々な関わり方の中で、多くの人と意見を交わすことが大切だと思いました。

令和4年度 第2回情報教育担当者研修会

令和4年12月13日(火)実施

対象：高知市立学校情報教育担当者各校1名

概要 電子黒板、1人1台端末等のICT機器の有効的な活用や情報教育に関する指導の充実のために、情報教育担当者として必要な資質の向上を目指す。

研修Ⅰ「公開授業」 授業者：十津小学校 小野川 学 教諭

○ 授業レポート 3年生体育科の授業「器械体操(マットショー：前転、後転、側方倒立回転)」

1 準備運動

小野川教諭の太鼓の音に合わせて「動物歩き」で技の動きを意識した感覚づくりの動きを行う児童。

「リズムに合わせて！」



心と体のスイッチオン

2 めあての確認

めあて「大きな側方倒立回転を目指そう！」
「体育ノ介(NHK for School)」を視聴し、画像に付箋を貼ってポイントを確認する。



足はピンと
足が大の字
側方倒立回転 ①手はハの字 ②手と手の間を見る
手と足のきよりをあげる

3 チャレンジアンドアドバイスタイム①

仲間との学び合いの充実
映像を見ながら、動きのポイントに沿って、具体的なアドバイスをお互いに出し合う。

「ひざを伸ばしてみよう」

「手をつくところが足に近いよ」



4 共有タイム

動きのポイントをおさえて、全体で再確認する。



5 チャレンジアンドアドバイスタイム②

技の達成のために必要なメニューを、自分で選んで練習する。

タブレットの活用は児童の判断に任せ、自由に活用できるようにしている。



6 ミニショータイム

組み合わせ技を行い、録画する。

「練習の成果がよく出てるね！」



ロイロノートの活用【資料1】

「可視化する」

- ポイントの整理
- 教師が整理したノートを提示

【共有ノート】

- 電子黒板に投影


【共有ノート】

複数で一つのノートを共同編集可能

- 教師が整理したノートを児童に共有
- 児童は、その都度、整理されたノートから必要な情報を引き出す

「振り返る」「記録する」

児童の振り返りを即時整理・共有



今日の流れ

- 心と体のスイッチオン
- 〇〇技に向けての運動
- めあて
- チャレンジアンドアドバイスタイム①
- 共有タイム
- チャレンジアンドアドバイスタイム②
- ミニショータイム
- ふりかえり
- 片付け

ICT活用のねらい

コミュニケーションツールとして、GIGAタブレットを活用します。録画した動画を見て、児童同士が技のコツを伝え合うことで、本時のめあての達成を目指します。

小野川 教諭

7 振り返り

【児童の感想より】

私は、足を大きく開くことを意識しました。〇さんは、足をピンと伸ばして、きれいな側転ができていたのいいと思いました。

共有ノート【資料1】で児童が付箋に書いた振り返りを全体共有することで、瞬時に全体の学びにつながった。

研修Ⅱ「講評・講話」 講師：東北学院大学 稲垣 忠 教授



高知市のこれからの取組への期待

- 1人1台の環境が日常になること
 - 日常のDXで「簡単・便利・楽チン」をまず実感
 - 学びのDXで「いつでも・どこでも・自分のペース」の学びを支援
 - 授業のDXで「対話・追究・創造」の質が高まる授業づくりへ
- ポストGIGAスクールの方向性
 - データ活用の基盤整備が進む→長期的な成長を支える仕組みへ
 - 学びの進化→学びの保障・個別最適な学び・探究・地域社会との連携



【受講者の感想】

- ・ ICTを活用していく土台づくりを学校全体で取り組んでいく必要があると感じた。そのため、低学年からICTが身近にある環境づくりに努めていきたい。
- ・ ロイロノートの活用について、単元構想に使えることを学んだ。早速、単元を見通した授業を構成したいと思った。また、ロイロノートも同時に共同編集ができるということを知り、活用し、よりわかりやすい授業づくりを目指したいと思った。

ご意見・ご感想を高知市教育研究所 教職員研修班までお寄せください。